

平成 14 年 4 月 8 日  
京都工芸繊維大学コンピュータ部

Lime 25  
春号



## はじめに

いつの間にか！という驚きの Lime 春号です。恥ずかしながら部長が知りませんでした。本当にご苦労さまです、山本くん。心から感謝します。さて、私が部長になったからには、コンピュータ部を三年で優勝の目指せる…（一文抹消）。

去年は黒べえ（4 ページ参照）で面白いことが出来ましたが、勉強会などがおろそかになったのが悔やまれます。今年は気を引き締めて、‘何かを残せるクラブ活動’をして行きたいと思います。部長の言葉はこれくらいにして、コンピュータ部手引きの書をご閲覧下さい。

平成 14 年 4 月 8 日  
京都工芸繊維大学コンピュータ部部長 越本 浩央

# 目次

I	活動 — 実際の活動内容	1
I.1	目的	1
I.2	内容	1
I.3	場所	1
I.4	予算	1
II	交流 — 幅広い交流関係	3
II.1	ML	3
II.2	顧問	3
II.3	OB および AXE について	3
II.4	kitcc.org サーバ	3
III	行事予定 — 恒例行事	4
III.1	新入生歓迎会	4
III.2	松ヶ崎祭	4
III.3	Lime 作成	4
IV	部室利用目安	6
IV.1	部室内コンピュータ	6
IV.2	アカウントの取得	7
IV.3	電源管理	7
IV.4	カギ管理	7
IV.5	清掃, 廃棄物処理場所	7
V	部役員	9
V.1	部長・副部長	9
V.2	会計	9
V.3	文連委員	9
V.4	係	9
VI	入部 — 入部方法	10
VII	現部員紹介 — 2002 年部員	11
	編集後記	14

# I 活動

## I.1 目的

さまざまな視点からコンピュータへ理解を深めることです。

## I.2 内容

具体的な活動内容としては、

- X-Window / Windows アプリケーション製作 (C, C++)
- Java, JavaScript, i-mode Java, Perl, PHP, Lisp 等のプログラミング
- デジタル回路, 電子回路製作
- 勉強会 (ネットワーク, オペレーティングシステム, CPU, プログラム言語, その他)
- インターネットサーバ管理 (部室内サーバ&LAN, Kitcc.org サーバ等)

などがあります。現在はソフトウェア関連の活動がほとんどになっています。

## I.3 場所

活動場所は主に下の 3 箇所です。

- 部室 (東構内, 北東端, 文化部資在庫 1F, 2 号室)
- 5 号館 10 号講義室 (オープン情報リテラシ室)
- 図書館 3F, セミナー室

通常は部室で活動を行ないます。勉強会や会合などでリテラシ室やセミナー室を利用します。

## I.4 予算

部費

入部費は 1500 円。部費は 1 カ月あたり 1000 円です。

ただし、5 月末日までに一括で 10000 円を払えば 1 年分になり、2 カ月分が免除されます。

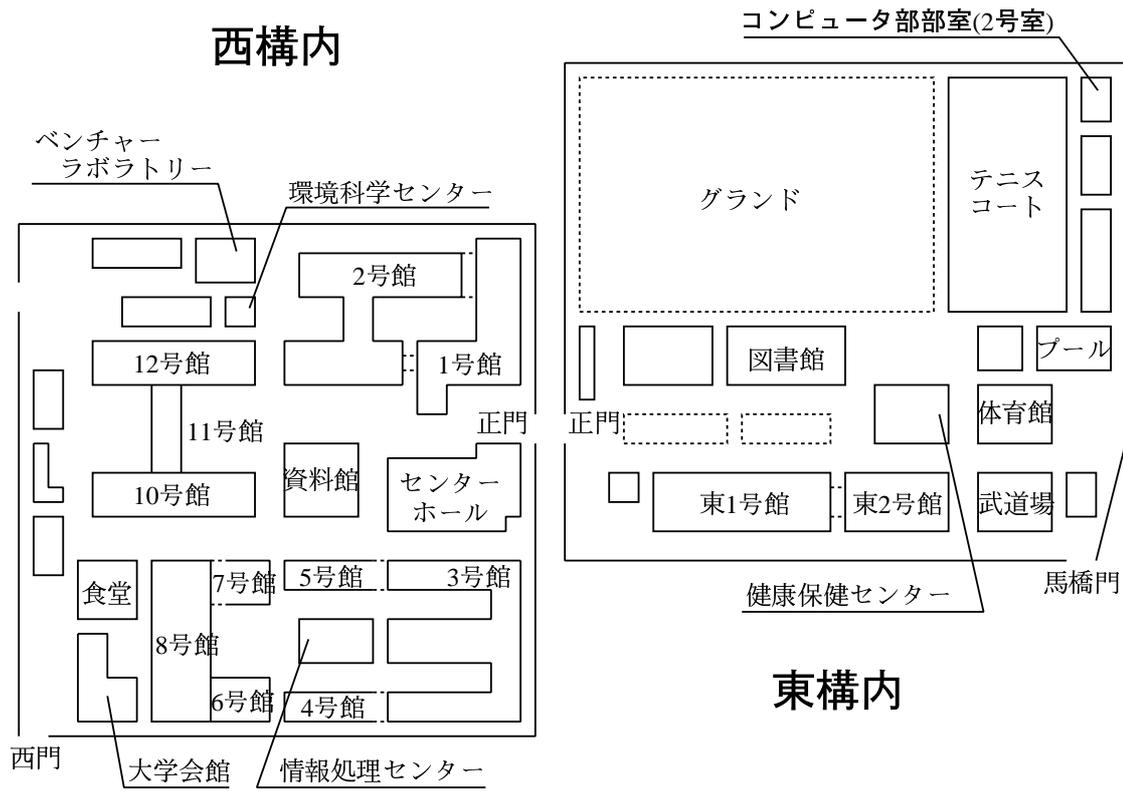


図 I.1: 大学見取図

主な用途

部室内のコンピュータやその周辺機器の購入, k-opti.com(インターネットプロバイダ) への支払い, 松ヶ崎祭の準備などに利用されます。

## II 交流

### II.1 ML

部員同士の連絡には ML (Mailing List) を利用します。ML とは、投稿したメールが部員全員に送付されるシステムです。

本クラブには 3 種類の ML があり、OB 用、パソコン用、携帯電話用、があります。これらの ML によって、勉強会や部会などの連絡通知を行ないますので、新入部員みなさんに登録していただくこととなります。

### II.2 顧問

小幡正規教官 (機械システム工学科) で、本クラブの OB でもあります。本クラブの活動にさまざまな協力をいただいています。

### II.3 OB および AXE について

本クラブでは、先ほどの ML などを通じて OB との交流があります。特に、OB の方が立ち上げられた AXE(アックス) という会社には大変お世話になっています。

AXE にいってみると、いろいろ話をさせていただいたり、実践的な活動を行なったりすることができます。

### II.4 kitcc.org サーバ

AXE の協力によって、本クラブはサーバを保有しています。本クラブのホームページは <http://www.kitcc.org/> にあります。メールサーバもあるので部員は `***@kitcc.org` というメールアドレスを持つことができます。また IRC サーバもあるので `irc.kitcc.org` の `port:6667` に IRC クライアントでつなげばチャットに参加する事ができます。最初はチャンネル `#lobby` に参加してください。

ちなみに `kitcc` とは `Kyoto Institute of Technology Computer Club` (京都工芸繊維大学コンピュータ部) の略です。

## III 行事予定

本クラブにはさまざまな年間行事があります。その主だったものをあげていきたいと思います。

### III.1 新入生歓迎会

毎年4月末、5月始にある新入生のための歓迎会です。新入生のみなさんの参加費は無料です。部員全員の紹介や、OBとの交流、活動に関する会話などができるので、ぜひ参加して下さい。

### III.2 松ヶ崎祭

松ヶ崎祭とは本学の文化祭のことです。11月下旬にあります。本クラブもこの松ヶ崎祭で毎年催しを計画しています。OBの方も多く訪れ、AXEの方もよく来ます。これを機会に交流を深める事もできます。

#### 教室展示

1年間の活動成果を展示します。本クラブの活動の総決算ともいえるものです。企業関係者との交流等もあるので、重要です。かつては、電子回路を製作したりする事が多かったのですが、最近の傾向はゲームやインターネットコンテンツになっています。また、i-modeのアプリを出す人もいますし、コンピュータに関係のあるものならとくに展示するものを定めているわけではありません。

半年以上前から計画し、準備を整えましょう。作品は夏休み中に完成させることになると思います。しかし、1回生のうちは無理に展示を行なう必要はありません。Limeに投稿するだけで十分です。

#### くるべえ

本クラブの有志で、喫茶店を開きます。これは、参加自由です。

### III.3 Lime作成

Lime (Limited Expression) とは、本クラブの発行する冊子です。松ヶ崎祭の教室展示などで配ります。内容は、部員の研究成果などを掲載するもので、分野は多岐にわたります。特に松ヶ崎祭の際

に配る Lime は 1 年間の活動の成果を部員全員が報告するもので、非常に興味深いものです。

この冊子の歴史は非常に古く、Lime 1 号はみなさんの生まれたころに発行されています。Lime の閲覧は自由です。部室に置いてありますので見てみるとよいでしょう。

表 III.1: Lime の蔵書数

号数	発行日	タイトル	蔵書数
1	1981/11/18		5 冊
2	1982/11/20		6 冊
3	1982	冬号	4 冊
4	1983/4	春号	4 冊
5	1983/11	秋号	7 冊
6	1983/12/25	クリスマスお正月号	6 冊
7	1984/7/16	夏号	5 冊
8	1984/11/23		2 冊
9	1984	竹岡さん特集号	16 冊
11	1986/11/23		10 冊
14	1989/11/22		4 冊
15	1990/11/22		1 冊
19	1994/11		27 冊
20	1995/11/22		7 冊
21	1996/11/20		9 冊
22	1997/11/22		32 冊
23	1998/11/21		15 冊
24	1999/11		0 冊
25	2000/11		2 冊
26	2001/11/20		85 冊
27	2002/4/8	春号	



## FreeBSD

上記のコンピュータ配置図において上の Windows 搭載のコンピュータが 1 台しかないのがわかると思います。このクラブでは主に FreeBSD という OS を利用します。電子情報工学科の方なら Solaris や Linux などの UNIX 系とよばれる OS を利用することになるとと思いますが、FreeBSD はそれらの OS とよく似ています。

安定性にすぐれていて、しかも無料であるなどさまざまな理由から本クラブでは FreeBSD を利用して活動を行なっています。

## IV.2 アカウントの取得

FreeBSD は Solaris や Linux, WindowsNT 同様アカウントが必要になります。gaia のアカウントを取得するとそこにログインすることができるようになり、プログラミングなどの作業を gaia 上で行なえるようになります。部員は全員 gaia のアカウントを取得することができます。くわしくは上回生の人に訊いてみて下さい。

## IV.3 電源管理

図 IV.2 のように、コンピュータ本体は別の電源系統をもっています。UPS(無停電電源装置)によって、停電時にもコンピュータがダウンしないようになっています。

一方の電源系統にはスイッチがあり、退室時に切ることによってムダな電力を消費しないようにしています。

## IV.4 カギ管理

通常、部室にはカギがかかっています。部室に来る際には上回生の人か ML に連絡をとって、都合のいい日時などを相談して下さい。

## IV.5 清掃, 廃棄物処理場所

ゴミは 2 ページの図 I.1 にある「環境科学センター」に捨てにいきます。月・水・金の 10:00 ~ 12:00 ・ 1:30 ~ 3:00 にあいています。

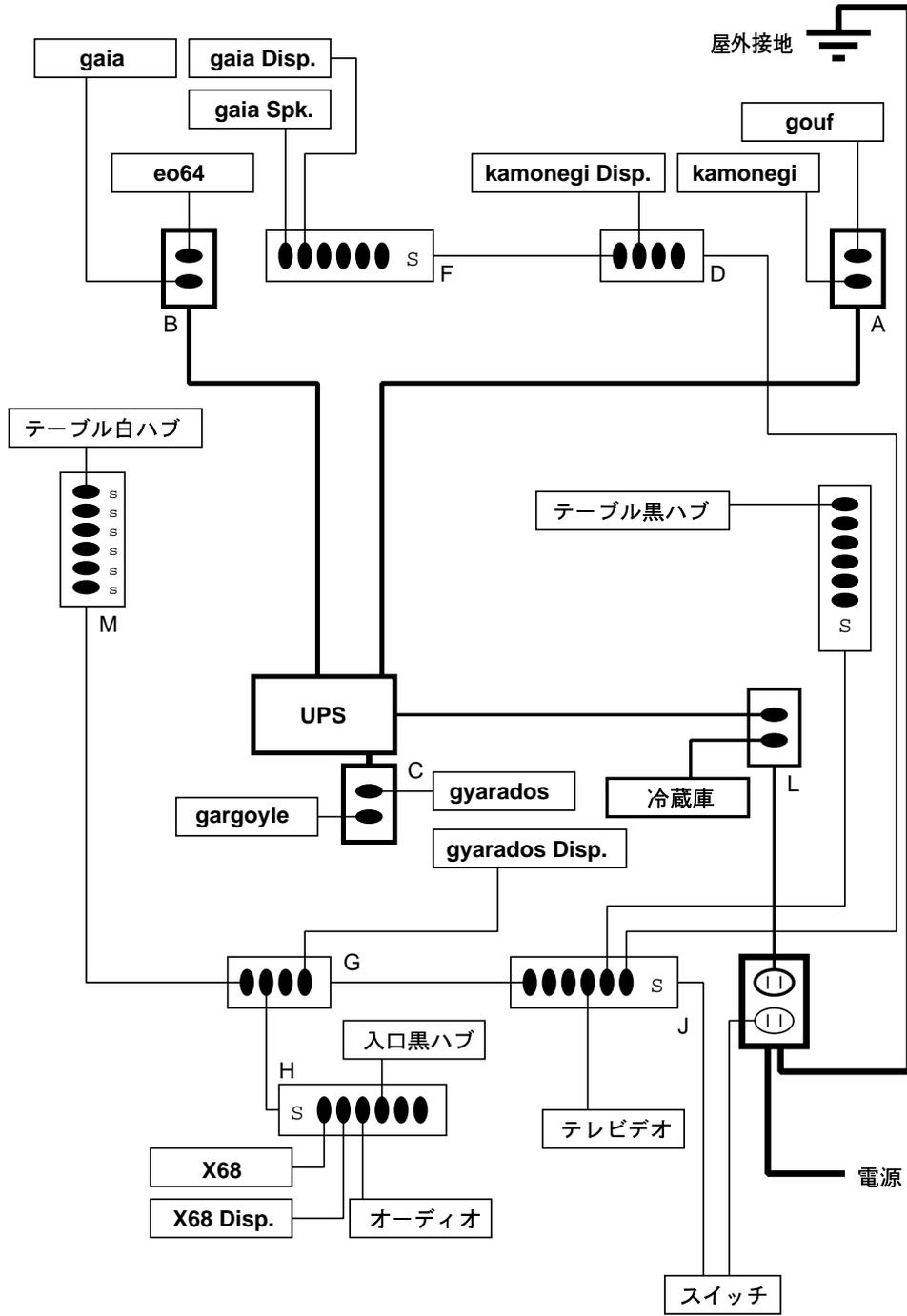


図 IV.2: 部室配電図

## V 部役員

### V.1 部長・副部長

部の活動の計画などをとりまとめ、それぞれの係と連絡を取って部を運営していきます。また、行事などにおいて役割分担を決定します。

### V.2 会計

部費の徴収や、部予算管理や松ヶ崎祭参加費、インターネット接続料の支払いなど、資金運用に関する全般の仕事をします。

特にインターネット接続料の支払いを忘れると、インターネットに接続できなくなるので、注意する必要があります。

### V.3 文連委員

文化部連合の会合に参加し、催しや学友会予算の配分を決定しに行きます。

### V.4 係

#### 活動報告書係

毎月、活動予定を記載した書類を学生課の担当職員に提出します。これには、顧問の認印が必要です。また、学生部の入口にあるクラブ宛郵便物を受け取りに行きます。

#### 名簿係

部員全員の載った名簿を管理します。

#### 書記係

部会などの決定事項を記録し、MLに投稿します。また、記録をファイルに綴じます。

## VI 入部

本クラブの活動に参加してみたいと思ったら、ぜひ入部してください。部員になれば学内の自由なネット環境や、情報の交換の場などさまざまな利点が得られます。ここでは、入部する際の手続きなどについて書いていきたいと思います。

まず、入部する時は部長または副部長に連絡を取って下さい。わからない時は、部員の人に頼んでも大丈夫です。その後、入部費 (1500 円) を会計に支払って下さい。

その後、ML への登録、gaia のアカウント、部員名簿への記録が順次行なわれます。もし、インターネット環境が家にない場合は gyarados の AL-Mail で ML を見る事ができます。定期的に部室に来て見るようにしましょう。

新入生歓迎会の連絡が入ると思いますのでぜひ参加して下さい。新入生の参加費は無料です。

入部後はなるべく部室に来るようにしましょう。ただ無理に来る必要はなく、チャットで参加したり、メールで情報交換したり、本クラブはさまざまな形で活動に参加する事ができます。わからないことがあれば、部室の本で調べたり上回生に訊いたりすることができます。また FreeBSD で UNIX 環境に慣れればコンピュータ関連の授業がかなり楽になります。

部室は自由に入れるよう、なるべく誰かがいるようにしていますが、閉まっている事もありますので、ML などで連絡をとって時間を調整しましょう。

AXE にも定期的に行く事をお勧めします。大学では学べない実務的な事を学ぶ事もでき、また社会勉強にもなります。

## VII 現部員紹介

### 大学院生

岐津 三泰 (きづ みつひろ) 電子情報工学科

名前:天叢雲剣 レベル:M1 種族:外道 神族:電情 属性:D/C HP:64/128  
 MP:2/64 力:5 知恵:30 魔力:2 体力:6 速さ:7 運:10 注意力:30000  
 状態:睡眠 技能:Cでゲーム作る/40MP Javaで対話システムを作る/55MP  
 同人誌即売会に行く/70HP

### 4回生

米田 裕 (よねだ ゆたか) 機械システム工学科

4回になってBOXに出現する回数は今までに比べ減ってしまったがそれでもBOX出現率は高いと思われる。

基本的にたいした能力は持っていないが 種族:ヲタ だけは注意が必要それに加えて心で精神力の低いキャラはシンクロされやすいので注意それ以外に特に危険なものはない。

奥谷 功一 (おくたに こういち) 機械システム工学科

電情の人が多く中、数少ない機械なので皆さんとやっていることが少し違います。勉強会は自分のやりたいことと懸け離れているので参加していませんが、根っからの機械屋なのでPCの中を弄るのは大好きです。暇なときにDTMやプログラミングを少ししています。

池上 智史 (いけがみ さとし) 電子情報工学科

大宮 広義 (おおみや ひろよし) 電子情報工学科

こんにちは。私は2001年度の部長をやっていました。学祭など大きな活動のこととかその他分からないことなどあれば、聞いてください。2002年は研究室配属があるので、正直どれだけ部活動に参加できるかわからないですが、できる限り部室に顔を出すようにはしてみるつもりです。今年はオライリー本を集め始めます。

谷尾 元聡 (たにお もとふさ) 電子情報工学科

野川 博司 (のがわ ひろし) 電子情報工学科

今真面目にやっている事といえば、Javaプログラミングくらいです。

純行でゲムプロジェクト進行中。好きなものはエヌ天堂のゲム全般とかです。どうぞ、よろしゅう~。

安達 洋明 (あだち ひろあき) 電子情報工学科

ゲームやユーティリティー, web プログラミングからネットワーク管理など幅広く色々やっています。でもどれが得意の言うわけでもなく, 浅く広くと言った感じです。学祭には対戦格闘ゲームを出品しました。現在 ruby を修得中。

横川 龍雄 (よこがわ たつお) 電子情報工学科

入部当初から C 言語しか使わなかった私ですが, 今では Java も扱うようになりました。

今は X Window System 上で OpenGL と GTK+ を用いた 3 次元モデラを製作中です。興味のある方は, 是非, 開発に参加してくださいね。

### 3 回生

清水 俊伸 (しみず としのぶ) 機械システム工学科

サターン大好き BSD 万歳, こもりぎみだったので最近運動不足, 今年は net 中心学業頑張る。

岸田 匡司 (きしだ まさし) 電子情報工学科

いろいろと他の活動もしているため, あまり部室に顔を出さない引きこもり部員です。正直なところ, 知識も技術もありません。今はとりあえず初級シスアド(あと危険物)の資格を目指して勉強中です。これが一段落ついたら, XML をやろうかと画策中です。

越本 浩央 (こしもと ひろお) <部長> 電子情報工学科

皆の上にわれらの世界を。なんちて, なんちて。基本的にプログラミング言語マニアだが, 最近では C++ で十分というノンポリ具合。興味は計算論とコンピュータグラフィックス。

春井 宏介 (はるい こうすけ) <文連委員> 電子情報工学科

ネットワークに興味はあるけれどまだまだ知らないことだらけの人間です。最近ホームページ関係 (JavaScript, CGI) の簡単なスクリプトを書いたりしています。Web データベースの勉強もしたいな...

松村 宗洋 (まつむら そうよう) <副部長> 電子情報工学科

松村です。Chat 等のハンドルネームは Lufin といいます。  
部内任務: 副部長 兼 自作 CGI 作成一般 兼 UG ウォッチ 兼 エセプログラマ  
兼 エセサーバ管理者

山本 大介 (やまもと だいすけ) <会計, 名簿係> 電子情報工学科

部内では「くき」や「はぶさん」と呼ばれています。  
X-Window プログラミングおよび perl が得意です。CGI プログラミングにも手をだしはじめました。BASIC, C, fortrun, perl, JavaScript などなど, いろいろやっています。

### 2 回生

池野 直樹 (いけの なおき) 電子情報工学科

最近ようやく、FreeBSD がある程度使えるようになってきたかなと個人的には思っています。あとは C と JAVA が使えるようになりたいというのが当面の目標。

池田 広樹 (いけだ ひろき) 電子情報工学科 こんにちは, 何かお手伝いすることがあったら, いつでもできる限りのことをします。よろしく。

石原 徳哲 (いしはら のりあき) 電子情報工学科

僕は入り立てで勉強不足なもので技術面で本当にまだまだ未熟者ですので、色々なんでも教えてくれたら本当に幸せです。

栗岡 嵩 (くりおか たかし) 電子情報工学科

部内名: DEC

昨年の新年会の幹事をしてしました。

わりと部室にいるので, お会いしましょう。

田中 大義 (たなか ひろのり) 電子情報工学科

部内名: Hillo

分野:企画, 画像, 音声, 他或程度

田村 航 (たむら わたる) <書記> 電子情報工学科

部内名: midou

1 回生の時は主に C 言語や LAN の基礎を勉強会等で学びました。

2 回生からはその応用や JavaScript など, 他の事について学びたいと思います。

## 編集後記

今年は、部の活動に早くなじめるように 20 年ほど前まであった春の Lime も発行してみることにしました。

入部した 1 回生はどうしても、部員の名前やその人がくわしい分野などがわからず、部活動や恒例行事に関しても疎くなりがちでした。行事においては、直前になって思い出したり気がついたり先輩に、指摘されたりして急に用意したりすることもありました。そのような事態をなるべくへらそうというのも、作成した理由のひとつです。

多少編集者の偏見がまざっている可能性があります、そのあたりは目をつぶってくださるとありがたいです。

今年に限らず、来年からもこのような冊子が発行できるようになればよいと思っています。

平成 14 年 4 月 8 日 編集担当 山本大介